

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成24年11月

砂川市(北海道)

全体総括

○計画期間;平成19年8月～平成24年8月(5年1月)

1. 計画期間終了後の市街地の状況(概況)

認定された基本計画に基づき、『安心で利便性の高い、歩いて暮らせる市街地形成』及び『ほっとひと息、心が癒される市街地形成』を目指して各事業を実施し、その結果病院の建替えや複合施設の新築、空き店舗を利用した飲食店等の開店により、中心市街地の利便性の向上が図られるとともに、植花や季節ごとの店舗のディスプレイなどにより、心が癒される環境が整備された。

特に市立病院の建替えにより、来院者数が増加し、それに伴い病院周辺の開発が進んだことから、国道12号から市立病院までの区間が特に利便性の向上や環境の整備が見られ、まちなかの賑わいに大きく寄与している。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか(個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

計画していた事業は市立病院について若干の遅延が見られたものの、概ね予定どおり実施できた。一方、南1丁目線の拡幅のように実施できなかった事業も見られる。

また、各目標の達成状況については、人口減や経済情勢の影響などから3指標とも目標値には至らなかったものの、各取り組みにより歩行者のまちなか平日通行量が増えていること、また、まちなか居住率も若干ではあるが計画策定時より増加しており、その面においてはまちなかの賑わいを取り戻せたと考えられることから、限定的ではあるが、中心市街地の活性化が図られたと考えられる。

3. 活性化が図られた要因(砂川市としての見解)

市立病院の建て替えをはじめ概ね計画通りの実施ができたこと、それに伴い市だけの取り組みではなく、民間の資本投入も行われたことから、それぞれの取組の相乗効果が発揮され、活性化が図られたと考えられる。

ソフト面の事業については、市と民間が一体となった取り組みが継続して実施されていることから、活性化が図られたと考えられる。

このように、市だけでなく事業者や商工会議所、商店会といった民間活力を十分に活かしたこと、両者の連携をもって事業を推進したことが要因として挙げられる。

4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取り組みをふり返ってみて

(協議会としての意見)

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった (計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった (計画策定時より悪化)

病院の建替え等施設整備の計画は概ね実施し、年間 25 万人以上の外来患者が訪れているほか、地域交流センターに年間 6 万人以上の来場者があり、まちなかに人を呼び込むことはある程度成功しているといえる。一方、集客を商業面での活性化へ結び付けていくところの展開がまだ不足していると思われ、集客施設と個店とが連携した形での活性化への結び付けが必要だと考えられる。

5. 市民からの評価、市民意識の変化

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった (計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった (計画策定時より悪化)

期間終了後アンケート調査を実施したところ、比較設問においては、基本計画を策定した時点での回答と比較すると 1-問 2 の砂川市のイメージについて「明るく活気のあるまち」という回答が増加している一方、2-問 1 ではまちなかの賑わいについて「変わらない」とする回答が多くみられる他、3-問 3 ではまちなかの活気について「変わらない」とする回答が多くみられる。

このように、市のイメージとしては「明るく活気のあるまち」とする市民が増えているが、実際のまちなかの賑わいや活気については期間終了前と変わらないと考えている市民が多いものと推察される。

一方、まちなか平日通行量について、基準値設定時 (平成 18 年度末) より 10%以上上回っていることや、市全体の人口が基準値設定時 (平成 18 年度末) と比較し 1,130 人減少しており、中心市街地では 250 人減少しているにも関わらず、まちなかの賑わいや活気について「変わらない」とする回答が多く見られたことは、市立病院改築事業や中心市街地活性化ソフト事業等におけるすながわスイートロード事業や地域交流センター運営事業によって、賑わいの創出の効果が発現していることが伺える。

このように数値面では事業の効果による活性化が図れたといえる一方、市民が活性化を意識する段階までは至っていないことが推察される。

アンケート形式 記入式

対象者 砂川市民

有効回答数 302 件

回答方法 選択肢及び自由記述

1. 全体質問

問 1 : 砂川市の好きなおとこ、好きでないところはどんなところですか。思いついたままでよいので自由に書いてください。

主な回答

・好きなところ

自然が豊か、緑が多い、交通アクセスが良い、医療関係が充実している、まちがコンパクトにまとまっている

・好きではないところ

買物をするところが少ない、飲食店が少ない

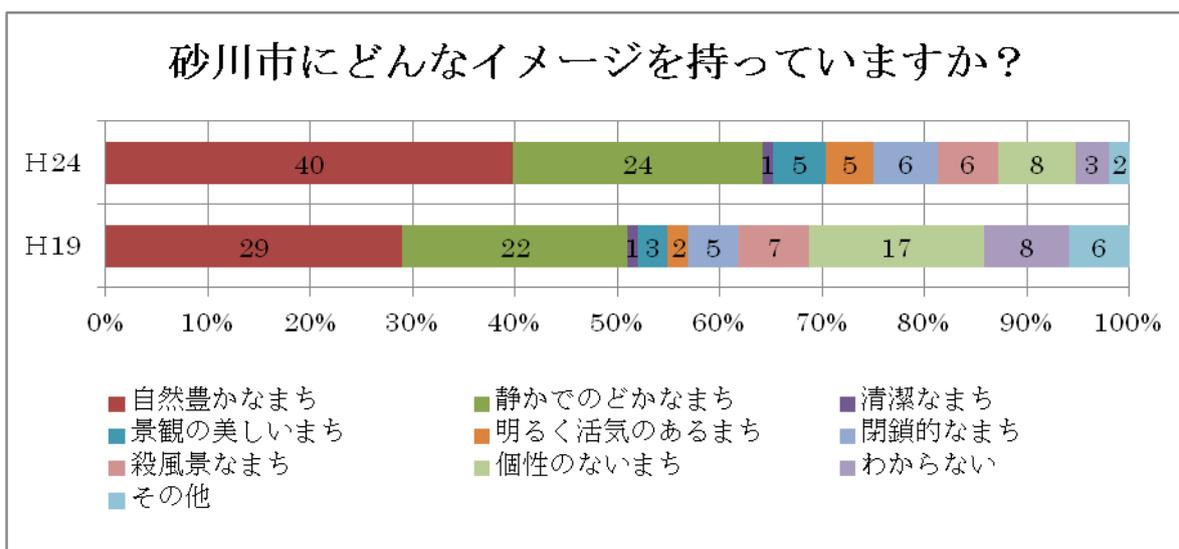
自由記述のため様々な回答が寄せられたが、主な回答は以上の通りである。好きなところとして自然、緑が多く環境の良さによる住みやすさ、医療関係の充実、まちがコンパクトであることが挙げられている。

好きではないところについては、買物、食事をするところが少ないところが挙げられている。

好きなところについては、市立病院の改築や、医療関係の複合施設のオープン等医療施設の充実が図られたこと、ハートフル住まいる推進事業等によりまちなか居住の推進が図られたことが、回答結果へ影響していると推察される。

一方好きではないところについては、商業面については不足を感じている市民が多いことが伺え、商業面のさらなる充実が今後の課題であると考えられる。

問2：砂川市にどんなイメージを持っていますか？（事業開始前との比較設問）

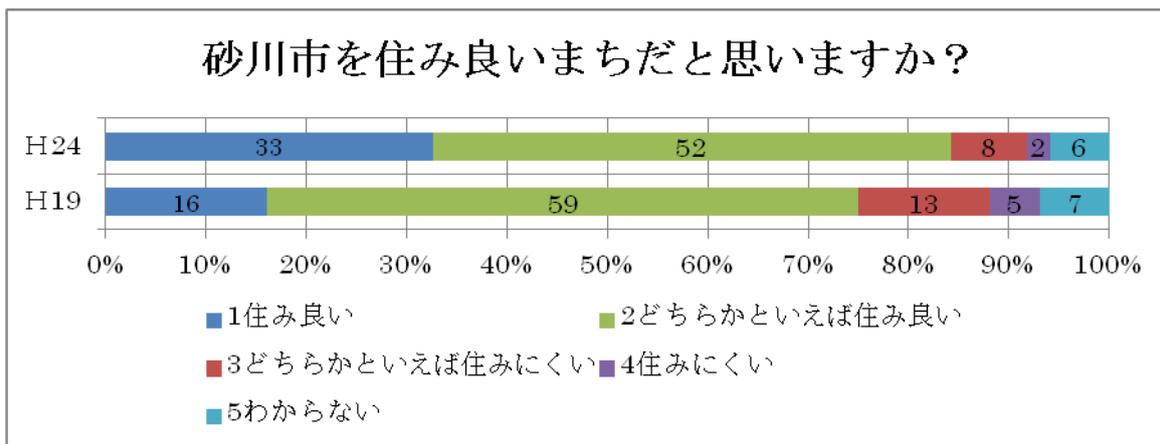


事業開始前の回答と比較すると「自然豊かなまち」「静かでのどかなまち」が上位2位を占めているのは変化が見られず、自然環境がもたらす憩い・安らぎのあるまちという評価が高いのは変わっていない。

また、項目1番目から5番目の「自然豊かなまち」「静かでのどかなまち」「清潔なまち」「景観の美しいまち」「明るく活気のあるまち」といった良いイメージであるとする回答が57%から75%に増加していることから、まちへのイメージが事業開始前と比べて全般的に良くなっていることが伺える。

さらに回答項目の「景観の美しいまち」が3%から5%に増加していること、「明るく活気のあるまち」が2%から5%に増加しており、花いっぱい運動等によるまちなかの景観美化や、中心市街地活性化ソフト事業等による賑わいの創出の効果が発現しているものと推察される。

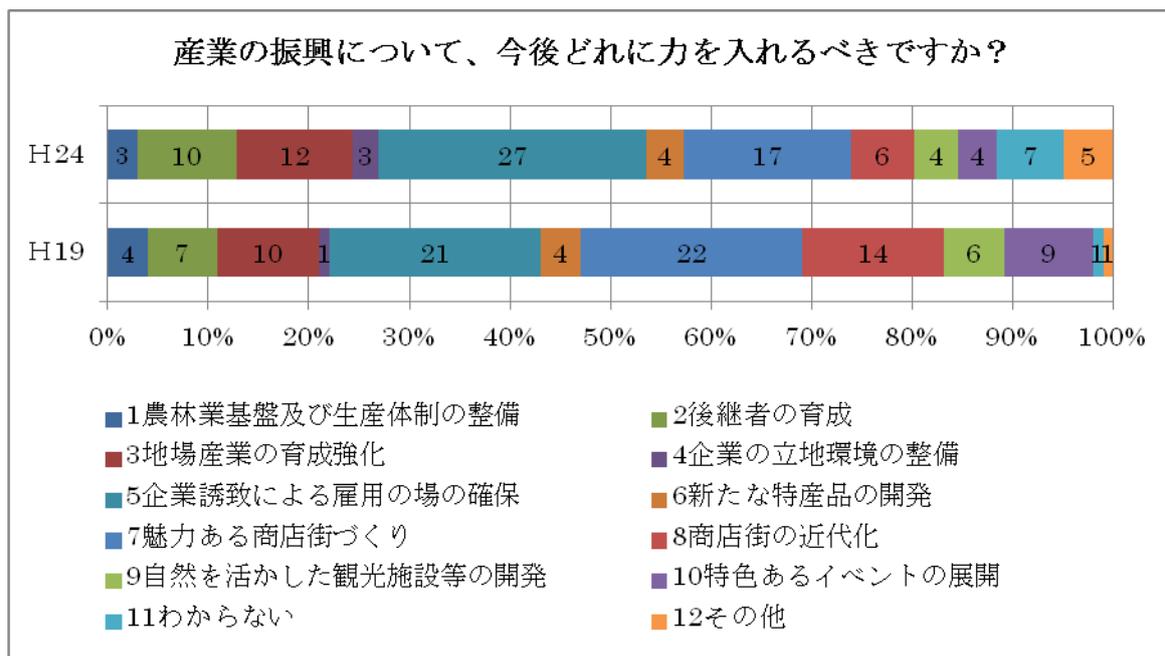
問3：砂川市を住み良いまちだと思いますか？（事業開始前との比較設問）



事業開始前の回答と比較すると、住み良いが16%から33%と倍以上に増加しており、また、どちらかといえば住み良いもあわせると75%から85%に増加していることから、住みやすさへの評価が高くなっていることが伺える。

市立病院改築事業等による医療機関の充実や利便性の向上、花いっぱい運動等によるまちなかの景観美化等の効果が発現しているものと推察される。

問4：産業の振興について、今後どれに力を入れるべきですか？（事業開始前との比較設問）

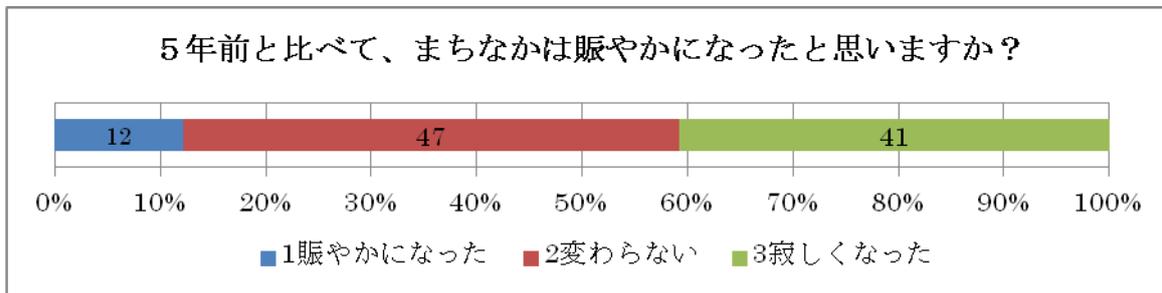


事業開始前の回答と比較すると、前回2番目に回答の多かった「企業誘致による雇用の場の確保」が27%を占め、もっとも多い回答になっており、雇用の場の確保が重要な課題となっていることが伺える。

前回の調査では22%だった「魅力ある商店街づくり」の回答が17%に減少しており、「商店街の近代化」の回答も前回の14%から6%に減少している。中心市街地活性化事業による花いっぱい運動等によるまちなかの景観の美化、プレミアム商品券発行事業や中心市街地活性化ソフト事業における商店街ディスプレイ等による商店街の活性化の効果が発現し、魅力のある商店街が形成されつつあることから、これらの回答が減少したものと推察される。

2. 砂川市が目指す将来像1「人々が集い、住み、賑わいを生み出し、高齢者も含めた多くの人が暮らしやすいまち」について

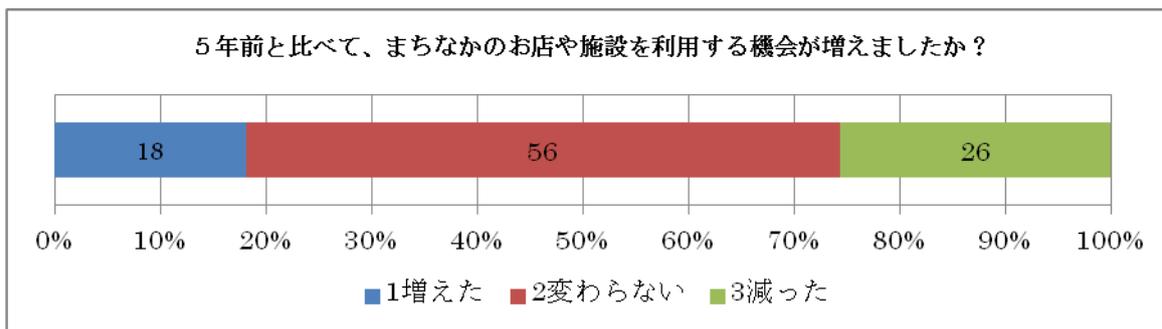
問1：5年前と比べて、まちなかは賑やかになったと思いますか。



47%が「変わらない」と回答している一方、「賑やかになった」が12%であり、「寂しくなった」が41%を占めており、寂しくなったとする回答が多く見られる。

市全体の人口が基準値設定時（平成18年度末）と比較し1,130人減少しており、中心市街地では250人減少している中、6割近くが「賑やかになった」「変わらない」と回答しているのは、市立病院改築事業や中心市街地活性化ソフト事業等におけるすながわスイートロード事業や地域交流センター運営事業によって、賑わいの創出の効果が発現しているためと推察される。

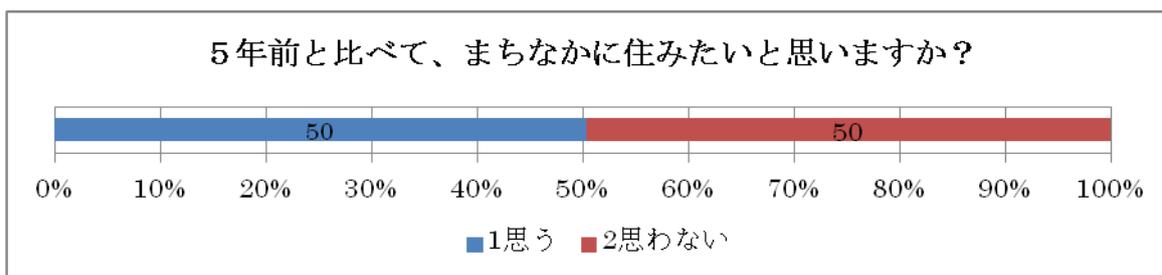
問2：5年前と比べてまちなかのお店や施設を利用する機会が増えましたか。



56%が「変わらない」と回答している一方、「利用する機会が増えた」が18%であり、「減った」が26%を占めており、減ったとする回答が多くなっている。

中心市街地活性化事業によりまちの賑わい等にはつながっているが、店舗や施設の利用については現状維持にとどまっており、利用増までには至っていない状況であることが推察される。今後はまちなかへの集客を、施設の利用や各店舗での購買活動に繋げていくための活動が必要になってくると考えられる。

問3：5年前と比べて、まちなかに住みたいと思いますか。



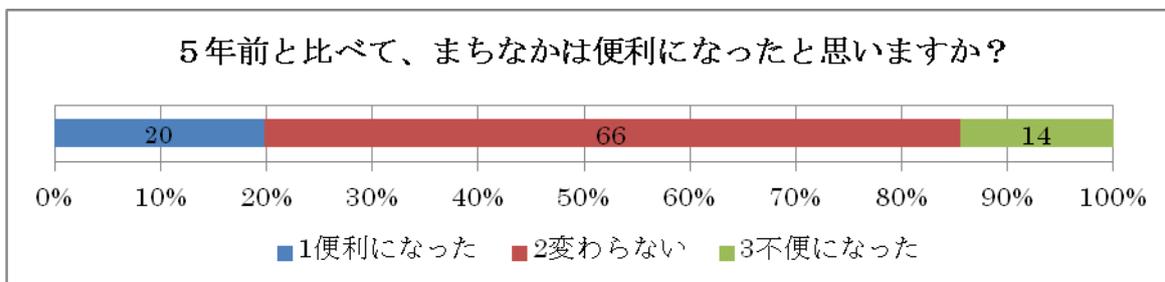
「住みたいと思う」「住みたいと思わない」が半々の結果になっている。中心市街地活性化事業に

より、まちなかの賑わいは創出されているが、「住みたいと思う」住民が多くなるまでには至っていないことが推察される。

今後も、まちなか住まいる助成金制度の周知の拡大等により、まちなか居住をより推進していくことが重要であると考えられる。

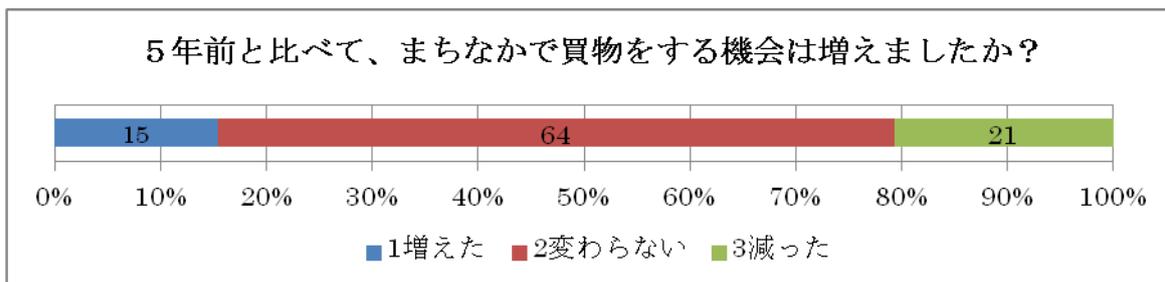
3. 砂川市が目指す将来像「都市機能がコンパクトに集積した活気あるまちの『顔』について」

問1：5年前と比べて、まちなかは便利になったと思いますか。



66%が「変わらない」と回答している一方、「便利になった」が20%、「不便になった」が14%であり、便利になったとする回答が多くなっている。中心市街地活性化事業により、病院の建替えや複合施設の新築等により、まちなかの利便性が向上していることが推察される。

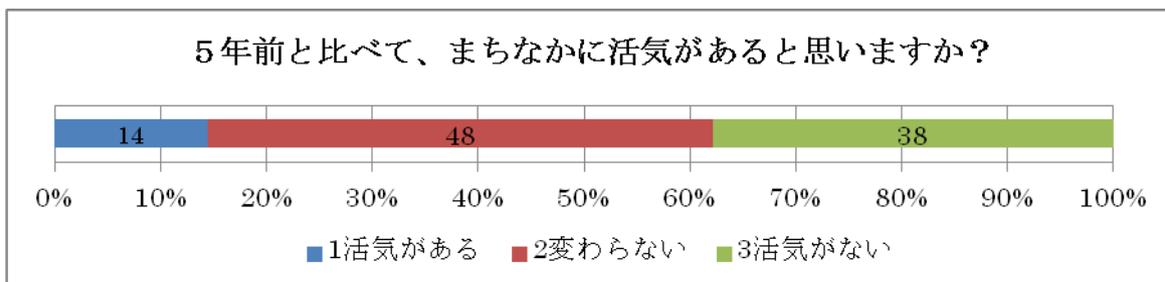
問2：5年前と比べて、まちなかで買物をする機会は増えましたか。



64%が「変わらない」と回答している一方「買物をする機会が増えた」が15%であり「減った」が21%を占めており、減ったとする回答が多くなっている。

中心市街地活性化事業によりまちなかの集客や賑わいには繋がっているが、購買行動にまではいたっていないことが推察される。今後はまちなかへの集客を各店舗での購買活動に繋げていくための活動が必要であると考えられる。

問3：5年前と比べて、まちなかに活気があると思いますか。



48%が「変わらない」と回答している一方、「活気がある」が14%であり「活気がない」が38%を占めており、活気がないとする回答が多くなっている。

市全体の人口が基準値設定時（平成18年度末）と比較し1,130人減少しており、中心市街地では

250人減少している中、62%が「活気がある」「変わらない」と回答しているのは、市立病院改築事業や中心市街地活性化ソフト事業等におけるすながわスイートロード事業や地域交流センター運営事業等によって、賑わいの創出の効果が発現しているためと推察される。

今後は、より活気のあるまちなかを目指し、活動を展開していくことが必要と考えられる。

4. その他

その他、まちなかの事について、思ったことを自由にご記入ください。

主な回答

- ・病院、ゆうが新しくなり使いやすくなった。
- ・ゆうができて、イベントや芸術分野で賑やかになった。
- ・ゆうの利用者が増えているので、今後いかに商店街に繋げていくかが課題だと思う。
- ・空き店舗が増えているので、その対策や改善が必要。
- ・お店が少なく不便。欲しいものが買えない。
- ・個人商店に頑張ってもらい、活気のあるまちにしてほしい。

6. 今後の取組

今回の計画で施設等の整備はほぼ達成されたが、さらなるまちなかの集客や賑わいに繋げるため、今後はソフト面の事業の充実を図っていく。特に小売販売額の減少が大きいことから、中心市街地の小売店に対し個店の売上アップのための支援を行い、個店の売上増に繋げることで、市民が意識面においても中心市街地の活性化を実感できる段階までの活性化を図っていく。

商店街活性化のための必須目標は「消費者満足度の向上による活性化」であるとする。本計画の実施による歩行者通行量と回遊性の増加を、商店街における購買行動に結びつけるために、個店の魅力の発掘や、商店会のレベルアップに力を注ぎ、消費者が満足できる購買活動ができるような商店街を作るべく、施策を推進していきたい。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
賑わいの創出	まちなか平日通行量	3,633人 (H18)	4,400人 (H23fy)	3,723人 (H24.3)	H24.3	B
				追記データ 4,007人 (H24.10)	H25.10	B
まちなか居住の促進	まちなか居住人口	6,052人 (H18)	6,200人 (H23fy)	5,865人 (H24.3)	H24.3	C
				追記データ 5,802人 (H24.10)	H25.10	C
商店街活性化	小売業年間商品販売額	15,738百万円 (H18)	16,200百万円 (H23fy)	15,017百万円 (H24.3)	H24.3	C

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定通り進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

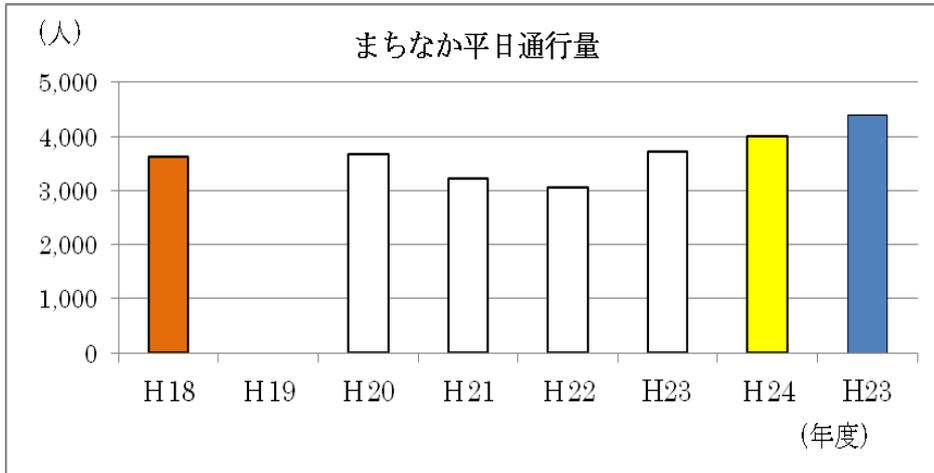
c (計画した事業は予定通り進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

目標「賑わいの創出」

「まちなか平日通行量」※目標設定の考え方基本計画 P. 42～P. 51 参照

1. 調査結果の推移



年	単位：人
H18	3,633 (基準年値)
H19	
H20	3,684
H21	3,228
H22	3,060
H23	3,723
H24	4,007
H23	4,400 (目標値)

※調査方法；各調査地点の9:00～11:00、14:00～16:00、18:00～20:00の時間帯における歩行者・自転車通行量を集計

※調査月；平成24年10月

※調査主体；経済部商工労働観光課商工観光係

※調査対象；歩行者・自転車通行者・平日・11地点

【総括】

- 歩行者通行量については、平成21年度及び22年度については基準値を下回ったものの、病院開院の翌年度である平成23年度から増加を続け、平成24年度には4,007人となり、前年度比284人の増となった。目標値には至らなかったものの、基準値を10%以上上回っている。特にJR砂川駅前から市立病院間の調査地点2点が、共に200人近く増加しているほか、商店街の中心に位置する商業施設Aコープ新すながわ前が前年度より100人近く増加している。一方病院から離れた地域内の調査地点では、前年度より減少する地点も見られた。
- このように、目標値には至らなかったものの、病院改築や地域交流センター運営事業による集客効果、また商工会議所が実施するプレミアム商品券発行业業及び砂川商店会連合会が実施する商品券発行业業並びに花いっぱい運動等ソフト面の事業の実施による回遊効果の発現により、まちなか平日通行量の増加が図られ、賑わいの創出に大きく寄与したものと見込まれる。

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 市立病院改築事業（砂川市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業） 平成18年度～平成24年度
事業開始・完了時期	平成18年度～平成24年度
事業概要	災害拠点病院としての耐震化強化、立体駐車場建設による駐車場不足の解消に加え、診療機能の拡充により北海道中空知地域センター病院として高度医療の

	充実を図る。
目標値・最新値	最新値：258,934人（平成23年度末）
達成状況	平成22年10月に本館の開院を始めに、23年10月にこころの医療センターを開院、24年10月には立体駐車場が完成した。 立体駐車場については若干の遅れが生じたものの、診療機能は当初計画通り確保されるに至っており、事業は達成した。
達成した理由	改築推進課を新規に設置し、市からの派遣職員と病院職員が連携して本課が中心となって事業を推進したため。
計画終了後の状況（事業効果）	耐震化の強化等施設面の充実、診療機能の拡充等医療機能の充実が図られ、中空知の高度医療を担う重要な病院としての機能を有するに至った。
市立病院改築事業の今後について	実施済み

②. 砂川市流雪溝管理運営事業（砂川市流雪溝管理運営協議会）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	昭和57年度～
事業概要	冬期間における排雪施設として、北海道電力火力発電所から放流される温排水を利用した流雪溝が整備されている。当該施設を沿道住民組織により管理運営する。
目標値・最新値	
達成状況	冬期間の良好な歩行空間が確保された。
達成した理由	砂川市流雪溝管理運営協議会により適切に運営されているため。
計画終了後の状況（事業効果）	冬期間の良好な歩行空間が確保され、歩行者の安全確保、まち並み景観の向上、回遊性の向上が図られた。
流雪溝管理運営事業の今後について	今後も同様の方法で継続する。

③. 中心市街地活性化ソフト事業（すながわスイートロード協議会・NPO法人ゆう）

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成15年度～
事業開始・完了時期	平成15年度～
事業概要	まちづくり事業および文化教育事業等により、市内外消費者を商店街へ誘致するとともに、活動を通じて全市横断的な協力体制を構築する。
目標値・最新値	最新値：スイーツフェスタ 参加者 220人（平成24年9月実施）

	地域交流センターゆう 利用者 64,471人（平成23年度末）
達成状況	スイーツフェスタなど市全体のPR活動をはじめ、季節ごとの商店街の飾り付けなど魅力ある商店街づくりへの事業を実施したことで、市内外消費者へのPR及び中心市街地の賑わいを創出した。
達成した理由	すながわスイートロード協議会及びNPO法人ゆうを主とした市民主体の事業展開を実施し、行政は必要に応じて支援を行い、行政と市民が一体になった組織づくり及び事業展開ができたため。
計画終了後の状況（事業効果）	ソフト事業の集客機能を活用し、まちなかへの集客効果が得られた。すながわスイートロード事業については「スイーツフェスタ」はすながわスイートロードを象徴するイベントとして地域に定着しており、また商店街の飾り付けについても季節のイベントとして定着し、中心市街地の賑わいに寄与している。また、地域交流センターゆうについても会員数等は微増ではあるが増加しており、まちなかの集客施設として重要な役割を担っている。
中心市街地活性化ソフト事業の今後について	両事業とも砂川のPR及び中心市街地活性化の重要な事業と位置付け、より内容を精査したうえで今後も継続して取組を進めていく。 今後はより商店街への経済波及効果が見られる事業を、商店街との協力も図りながら展開していく。

④. 観光客誘致事業（すながわスイートロード協議会）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成18年度～
事業概要	観光ツアーを誘致することにより、当市知名度の向上と市外消費者の獲得を図る。また、観光ボランティアを育成し、地元商店街と観光資源を連携させた新たな魅力創出を目指す。
目標値・最新値	最新値：JRヘルシーウォーキング 421人（平成24年9月実施）
達成状況	観光ツアーを誘致し、市民ボランティアが積極的にかかわることで、中心市街地への市外消費者の誘致が図れた。
達成した理由	ツアーへの市民の協力があつたことから、内容の充実、ひいてはツアーの継続につながり、さらなる市外消費者の誘致を図れたため。
計画終了後の状況（事業効果）	ツアーを契機に個人での来訪者が見られる等、市外消費者の誘致が図られており、知名度の向上と市外消費者の獲得につながっている。
観光客誘致事業の今後について	計画中に実施したツアーにとどまらず、積極的に旅行会社等に働きかけを行い、様々な形でのツアーの誘致を図る。

⑤. 中心市街地回遊事業（中心市街地活性化協議会）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成 18 年度～
事業概要	中心市街地活性化協議会内に設置した回遊策検討委員会が中心となり、集客施設利用者を商店街へ回遊させる事業を展開する。
目標値・最新値	最新値：プレミアム商品券 2,000 セット販売（平成 24 年 9 月実施）
達成状況	足湯の設置等空き店舗を活用したイベントの実施、プレミアム商品券、夏冬の大売り出しイベント等の事業を通し、集客施設利用者に商店街への関心を持ってもらい、商店街での消費活動に結び付けることができた。
達成した理由	検討委員会での十分な検討があったこと、また商店主たちが主体となって PR 等の積極的な活動を推進したため。
計画終了後の状況（事業効果）	本事業を通して、商店街への関心を持ってもらう事ができ、商店街へ消費者が訪れるきっかけになった。また、大売り出しイベント等毎年恒例化したイベントもあり、商店街の回遊に大きく貢献している。
中心市街地回遊事業の今後について	今後は、既存の事業も活かしつつ、新しい事業も視野に入れながら中心市街地の回遊策を図る事業を展開していく。

⑥. 国道一直線花いっぱい運動事業（砂川商店会連合会）

支援措置名及び支援期間	ボランティアサポートプログラム 平成 14 年度～
事業開始・完了時期	平成 14 年度～
事業概要	中心市街地区域を縦貫する国道 12 号沿線 2.3 km における植花事業。国道利用者に賑わいと景観美化を印象づけるとともに、商店会連合会の組織力強化を図る。
目標値・最新値	最新値：マリーゴールド 5,210 株（平成 24 年 6 月実施）
達成状況	砂川の賑わいと景観美化を印象付け、商店街の活性化と魅力向上を図ることができた。
達成した理由	実施主体である砂川商店会連合会が中心となり、市民と行政の連携した形での事業を推進したため。
計画終了後の状況（事業効果）	毎年の植花事業の実施により、砂川の賑わいと景観美化を印象付け、商店街の魅力向上を図ることができ、市民の商店街への回遊にも寄与している。
国道一直線花いっぱい運動事業の今後について	継続して事業を実施していくことで、商店街の景観美を維持し、商店街の活性化を図る。

⑦. 砂川「もっと花いっぱい運動」事業（砂川「もっと花いっぱい運動」推進協議会）

支援措置名及び 支援期間	砂川市TMO事業補助金 平成17年度～
事業開始・完了時期	平成17年度～
事業概要	中心市街地区域の道道および市道沿線における植花、プランター設置事業。道道・市道利用者に賑わいと景観美化を印象づけるとともに、商業関係者の組織力強化を図る。
目標値・最新値	最新値:マリーゴールド 1,600株 サルビア 1,600株(平成24年6月実施)
達成状況	砂川の賑わいと景観美化を印象付け、商店街の活性化と魅力向上を図ることができた。
達成した理由	TMOが中心となり、市民と行政の連携した形での事業を展開したため。
計画終了後の状況（事業効果）	毎年の植花事業の実施により、砂川の賑わいと景観美化を印象付け、商店街の魅力向上を図ることができ、市民の商店街への回遊にも寄与している。
砂川「もっと花いっぱい運動」事業の今後について	継続して事業を実施していくことで、商店街の景観美を維持し、商店街の活性化を図る。

3. 今後について

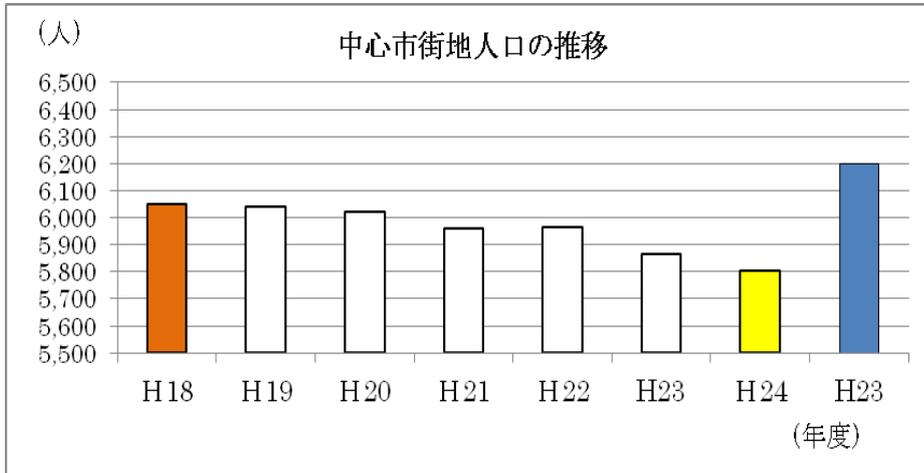
- ・現在実施している北2丁目通り（市立病院前道路）の歩道ロードヒーティング化が平成24年11月に完了することから、来院客等を対象に、市立病院周辺環境の安全性と利便性がさらに高まると見込まれ、さらなる集客機能の向上が図られるものと推察される。
- ・また、10月9日には、Aコープ新すながわ前に金融機関が新築により店舗を移転しており、店舗敷地の一部を駐車場として開放している他、イベント広場としての活用も計画されており、さらなる中心市街地の集客機能及び回遊性の向上が見込まれる。
- ・さらに、平成24年3月現在市立病院の外来患者数は対前年度比で約3,000人増加し、当市を商圈とする近隣1市4町からの外来患者数を見ても1,296人が増加、当該1市4町からの外来患者初診率は10.72%から11.27%（585人増）と向上している。また、10月14日には、昨年に引き続き市立病院主催事業である「病院祭」が開催され、920人の来場を得ている。当該事業は患者等にも大変好評を得ており、次年度以降も引き続き開催される予定である。
- ・また、市立病院側より、市立病院内に砂川市商店会連合会等商業団体のポスターを掲示してよいという提案があり、現在各団体と掲示に向け検討している。掲示が実現すれば、市立病院への来客を商店街に誘導することができ、市立病院と商店街の間における通行量の増加及び回遊性の向上が見込まれることから、各団体と連携を取りながら本事業を推進していく。
- ・これらの要因により中心市街地の集客機能、回遊性の向上が今後さらに見込まれることから、商工会議所、商店会等と連携し、それらを十分に活用したソフト面の事業の一層の充実を図ることで、魅力的なまちなかを演出し、さらなる通行量の増を図り、また、居心地のよいまちなかを創造していく。

個別目標

目標「まちなか居住の促進」

「まちなか居住人口」※目標設定の考え方基本計画 P. 52～P. 55 参照

1. 調査結果の推移



年	単位：人
H18	6,052 (基準年値)
H19	6,043
H20	6,022
H21	5,962
H22	5,963
H23	5,865
H24	5,802
H23	6,200 (目標値)

※調査方法；住民基本台帳から中心市街地地域居住者を抽出し集計

※調査月；平成 24 年 10 月

※調査主体；砂川市

※調査対象；中心市街地地域における住民基本台帳登録人口

【総括】

- ・市全体の人口が基準値設定時（平成 18 年度末）と比較し、平成 24 年 10 月 31 日現在で市全体では 19,763 人から 18,633 人になっており 1,130 人の減少、中心市街地では 6,052 人から 5,802 人と変動しており 250 人の減少が見られ、市全体の人口が減少していることが伺える。
- ・一方、まちなか居住割合については基準値設置時の 30.62%と比較し、年々増加の傾向にあり、平成 24 年 10 月 31 日現在で 31.14%と 0.52 ポイント増加しており、人口は減少しているものの、まちなかに居住する市民の割合は増えている。
- ・南一丁目線拡幅事業は実施できなかったものの、ハートフル住まいる推進事業をはじめとするまちなか居住事業の実施により、まちなかの居宅の増加と、居住環境の整備が図られたことから、まちなか居住割合が増えたものと考えられる。

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 南一丁目線拡幅事業（砂川市）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	【未】平成 30 年度
事業概要	東西市街地を最短ルートで結ぶ南 1 丁目線の鉄道高架下部分は、1 車線のため車両交差できず、2.8m の高さ制限のため緊急車両が通過できない。狭小道路を拡幅し住環境と回遊性を向上させるもの。
目標値・最新値	

達成状況	平成 19 年度に調査測量を実施したが、現在は市議会への事業諮問案提出が凍結されている。
達成できなかった理由	調査測量の結果、多額の費用が必要とされることから、交付金制度をめぐる情勢や当市の財政状況を勘案し、市議会で凍結の確認がされたため
計画終了後の状況 (事業効果)	未実施
南 1 丁目線拡幅事業の今後について	現在は凍結されているが、交付金の情勢や当市の財政状況を勘案の上、凍結の解除及び事業の実施に向け引き続き検討していく。

②. 駅東通り改良舗装事業（砂川市）

支援措置名及び支援期間	道路事業 平成 16 年度～平成 19 年度
事業開始・完了時期	平成 16 年度～平成 19 年度
事業概要	JR 砂川駅東部地区における公営住宅整備、福祉施設移転改築、地域交流拠点施設の移転改築に伴い、道路整備を実施するもの。
目標値・最新値	目標値：延長 600m、最新値：延長 600m（平成 23 年度末）
達成状況	総延長 600m の道路整備を完了。平成 19 年 11 月 30 日供用開始。
達成した理由	駅東部地区の開発により道路整備が必要となったこと、中心市街地への回遊性の向上が見込まれたことから、市として重点的に事業を推進したため。
計画終了後の状況 (事業効果)	地域交流センター、市営・道営住宅、特別養護老人ホーム等へのアクセスが改善されており、また近隣では宅地造成が行われ、新築住宅の建築も見られる。
駅東通り改良舗装事業の今後について	実施済み。

③. 特別養護老人ホーム移転改築事業（社会福祉法人砂川福祉会）

支援措置名及び支援期間	社会福祉施設整備事業 平成 18 年度～平成 19 年度
事業開始・完了時期	平成 18 年度～平成 19 年度
事業概要	市立病院改築地に位置する特別養護老人ホームを JR 砂川駅東部地区に移転改築するもの。一人用個室の整備とユニットケア方式の採用により高齢社会に対応した新施設とする。
目標値・最新値	最新値：定員 100 人中入所者数 99 人（平成 24 年 10 月 31 日現在）
達成状況	平成 19 年 6 月 1 日開所。
達成した理由	砂川福祉会が主となり、行政と連携して事業を実施したため。
計画終了後の状況	継続した施設の運営が行われ、砂川市の高齢者への社会福祉に貢献している。

(事業効果)	
特別養護老人ホーム移転改築事業の今後について	今後も継続して施設を運営していく。

④. 光ファイバー誘致事業 (砂川商工会議所)

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成 18 年度～平成 19 年度
事業概要	次世代通信網である光ファイバーを整備することにより、地域住民の情報受発信システムの高度化を図り、まちなか居住を促進する。
目標値・最新値	
達成状況	中心市街地区域内の整備を完了。平成 19 年 5 月供用開始。
達成した理由	砂川商工会議所が中心となり、積極的な誘致を図ったため。
計画終了後の状況 (事業効果)	中心市街地区域に光ファイバーが導入されたことにより、インターネットの接続に光回線を使用できるようになった。
光ファイバー誘致事業の今後について	利用者のニーズも把握しながら、整備範囲の拡充を図る。

⑤. ハートフル住まいる推進事業 (砂川市)

支援措置名及び支援期間	地域住宅交付金 平成 18 年度～平成 21 年度
事業開始・完了時期	平成 18 年度～継続実施
事業概要	中心市街地区域における新築住宅の建設または中古住宅の購入等に対する助成事業。中心市街地区域の助成要件を優遇することにより、まちなか居住を促進する。
目標値・最新値	最新値：まちなか住まいる申請件数 39 件 (平成 23 年度末)
達成状況	平成 18 年度以降申請件数が 250 件に上り、まちなか居住の推進に寄与している。
達成した理由	広報紙、ホームページを利用した広報活動を行った他、市立病院をはじめとしまちなかの居住環境が整備され、利便性が向上したため。
計画終了後の状況 (事業効果)	まちなか居住の促進につながったほか、まちなかに新築住宅が建てられたことにより、まちなみの景観の改善にもつながっている。
ハートフル住まいる推進事業の今後について	砂川市全体の人口の減少は顕著であるが、JR 砂川駅東部地区開発および当該事業助成優遇区域の拡大により、まちなか居住割合は増加傾向にある。平成 26 年度まで期間を延長し、また補助率の拡大を行ったことで、今後もまちなか居住を推進していく。

⑥. まちなか居住推進事業（民間施工者）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成 20 年度～継続実施
事業概要	市立病院改築事業に伴い、民間活力による病院従事者、市民等を対象とした共同住宅が供給されることにより、まちなか居住を促進する。
目標値・最新値	最新値：民間活力による共同住宅の建設状況 5 棟（32 戸）（平成 23 年度末）
達成状況	平成 20 年度以降 13 棟 92 戸が建設され、まちなか居住の推進に寄与している。
達成した理由	市立病院改築事業等に伴い、まちなかの居住環境が整備され、利便性が向上したため。
計画終了後の状況（事業効果）	まちなか居住の促進につながったほか、まちなかに新築住宅が建てられたことにより、まちなみの景観の改善にもつながっている。
まちなか居住推進事業の今後について	砂川市全体の人口の減少は顕著であるが、JR 砂川駅東部地区開発およびハートフル事業助成優遇区域の拡大により、まちなか居住割合は増加傾向にある。今後も環境整備の推進等により、まちなか居住を推進していく。

⑦. 砂川市流雪溝管理運営事業【再掲】P. 3 参照】

3. 今後について

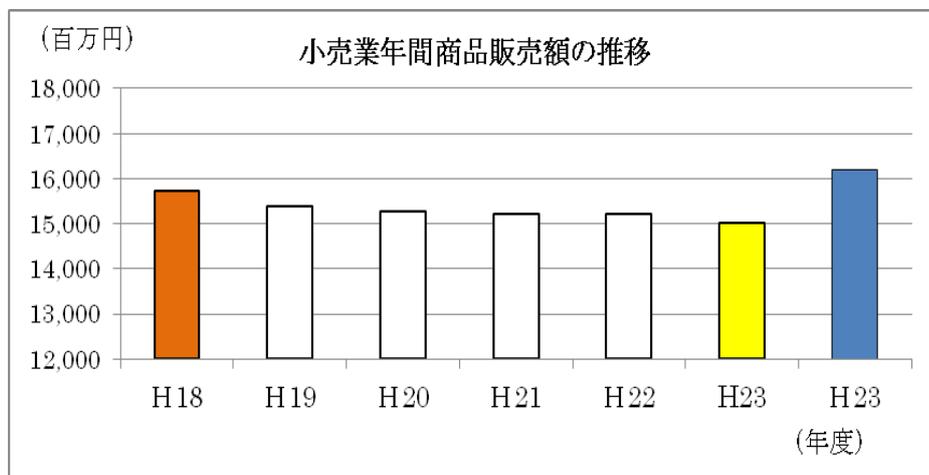
- ・平成 26 年度まで延長することとしたハートフル住まいる推進事業を促進すると共に、平成 24 年度より、中心市街地区域においての地元企業を利用した新築工事等の事業助成制度助成額をこれまでの工事費の 3%（限度額 70 万円）から、工事費の 4%（限度額 90 万円）に増額しており、さらなる積極的な活用を促進することにより、さらなるまちなか居住人口の増加を促進する。
- ・また、平成 23 年 4 月 18 日、薬局複合ビル内の医療モールにおいて耳鼻咽喉科が開院していることから、ハートフル住まいる推進事業の積極的な活用と併せて病診連携による住環境の優位性を周知し、まちなか居住の一層の促進を図る。

個別目標

目標「商店街活性化」

「小売業年間商品販売額」※目標設定の考え方基本計画 P. 56～P. 61 参照

1. 調査結果の推移



年	単位：百万円
H18	15,738 (基準年値)
H19	15,392
H20	15,282
H21	15,202
H22	15,207
H23	15,017
H23	16,200 (目標値)

※調査方法；大型3店舗の年間商品販売額から分担率（38.68%）により推計

※調査月；平成24年3月

※調査主体；砂川市

※調査対象；平成19年商業統計の中心市街地区域内に立地する大型3店舗（コープさっぽろ、Aコープ新砂川、アシル砂川スーパーふじ）

【総括】

- ・基準値設定時（平成18年度末）より微減の傾向が続いている。平成22年度のように、年度によっては若干の改善がある年度も見られるが、全体的には微減の傾向が続いている。
- ・一方、歩行者通行量については、調査の数値からも、Aコープ新すながわ前の歩行者通行量が前年度に比べ約100人の増が見られる等、まちなかへの集客と商店街への回遊性向上が認められており、各種事業に伴う効果発現により消費行動拡大に向けた環境は整備されつつある。
- ・しかし、現下の景気低迷の影響は依然として厳しく、消費者は低価格商品を求める傾向が顕著となっているにも関わらず、経営基盤の脆弱な小規模店舗はコスト低減が困難であり、消費者のニーズに応え切れていない状況があることや、大型店舗においても低価格商品の開発等により企業努力を行っているものの、販売額は減少傾向にあり、歩行者通行量の増加が商品販売額の増加に結びついていない状況である。

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 市立病院改築事業「【再掲】P.3参照」

② 中心市街地活性化ソフト事業「【再掲】P.4参照」

③ 観光客誘致事業「【再掲】P.4参照」

④ 中心市街地回遊事業「【再掲】P.4参照」

⑤. 中小企業等振興補助事業（砂川市）

支援措置名及び 支援期間	
事業開始・完了 時期	平成 11 年度～
事業概要	中心市街地に包括される商業地域・近隣商業地域における店舗の建設費等の一部を補助することにより、空き店舗の解消と起業支援を図る。
目標値・最新値	最新値：新規賃借料助成実績 2 件、新規開業助成実績 3 件（平成 23 年度末）
達成状況	平成 19 年度以降新規賃借料助成実績が 8 件、新規開業助成実績は 5 件あり、まちなかの空き店舗の活用と起業支援が図られ、商店街の活性化に寄与している。
達成した理由	広報紙、ホームページを利用した広報活動を実施した他、まちなかの居住環境が整備され、利便性が向上したためにまちなか居住人口割合が増え、店舗を利用する消費者が増加したため。
計画終了後の状 況（事業効果）	新規開業した店舗は 5 店とも現在まで継続して営業を続けており、まちなかの利便性の向上や、商店街の活性化につながっている。
中小企業等振興 補助事業の今後 について	本事業は新規開業を促進することで、商店街の活性化につながることから、今後も制度の周知に努め、まちなかでの新規開業及び営業の継続を促進する。

⑥. 匠のものづくり学校事業（民間事業者）

支援措置名及び 支援期間	
事業開始・完了 時期	平成 20 年度～平成 22 年度
事業概要	店主が自身の技術や商品知識を披露する場を形成することにより、店主の接客技術・商品知識の向上及び新規顧客の開拓を図る。
目標値・最新値	最新値：実施実績 1 件（平成 22 年度）
達成状況	平成 20 年度以降、中小企業基盤整備機構北海道支部の協力を得て商品の陳列方法等に関する研修を実施した他、市内女性団体の主催により、店主が講師となった事業が 2 件実施されており、店主の接客技術等の向上につなげる事業を実施することで、店主の接客技術・商品知識等の向上に繋がった。
達成した理由	各店が専門技術を活かし、積極的に事業の実施に関わったため。
計画終了後の状 況（事業効果）	講師を実施した店舗に受講した消費者が買物に来るようになる等、店主と消費者を繋ぐきっかけになっている。
匠のものづくり 学校事業の今後 について	本事業は店主の接客技術の向上等の他、店主及び消費者双方の距離を縮めることができる等、お互いにとって有益な事業であるが、講師になることについて店主によっては心理的に抵抗があることも想定されるため、今後は店主が講師になることについてより多くの支援を行い、より積極的に講師に参加してもら

	うよう促していく。
--	-----------

3. 今後について

- ・各個店が消費者満足度の向上を図り、消費者に対する魅力をアップすることにより、売上の増に繋げることを目標とし、市や商工会議所、商店会連合会で連携して取り組みを図る。
- ・また、商工会議所および商店会連合会による商品券発行事業は、消費者の市外流出を防止して内需を拡大し、新規顧客の獲得にもつながるものであることから、平成 24 年度においても事業を継続する。特に商工会議所が実施するプレミアム商品券発行事業については、商品券発行部数の増加や、更なる住民への利用の周知を図ることで、より一層の経済効果の波及を図る。
- ・また、市立病院側より、市立病院内に砂川市商店会連合会等商業団体のポスターを掲示してよいという提案があり、現在各団体と掲示に向け検討している。掲示が実現すれば、市立病院への来客を商店街に誘導することができ、商店街の活性化が見込まれることから、各団体と連携を取りながら本事業を推進していく。
- ・中小企業等振興補助事業に基づく助成実績は、近年、堅調に推移している。商業地域等における店舗新築および空き店舗活用による新規開業を一層促進するため、平成 23 年度に助成対象業種の拡大と早期の家賃助成を可能とする条例および施行規則の一部改正を行ったところである。当該助成制度のより一層の周知を図り、店舗新築と新規開業の増を図る。

